



JACP

Japanese Association for Community Pharmacy

～JACP5年間のあゆみ～
2013年11月22日～2018年7月31日



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会

地域社会の拠点となり人々にとっての拠り所となる

いきつけ薬局を目指して!



ごあいさつ

2013年に設立した日本コミュニティファーマシー協会 (JACP) は、5年を過ぎ6年目を迎えました。ここでこの5年の歩みを振り返ってみたいと思います。

JACPは設立の趣旨にもありますように、医薬分業発祥の地であるドイツ、地域に密着したコミュニティファーマシーであるドイツの薬局、さらに言えば、健康サポート薬局の機能も標準装備しているドイツ薬局を範にしています。私が日本の薬剤師と共にドイツへ視察に行くようになって17年になります。その間にドイツの薬局も変化し、現在では機械化がとて進んでいます。日本の薬剤師たちがドイツを訪れ、いきつけ薬局であり、OTC医薬品、自然派化粧品、ヘルスケアに関わる商材を販売し、地域住民の何でも相談を受け付けているドイツの薬局の対応を見て感じ、日本に帰ってきて何か日本でも取り入れられるところがないかを模索しています。

ドイツの薬局を範に取る理由はもう一つあり、それは薬剤師のマインドの部分です。ドイツの薬剤師は、薬剤師国家試験に合格すると開局免許をもらいます。それをもらうということは、一人で地域の住民のヘルスケアに責任を持つということで、一人で薬局を切り盛りするすべを身につけておかなければなりません。常に頭は薬学

モードになっていて、常に患者や地域住民のことを考えています。

この5年間JACPでは薬局開設者、薬剤師のパラダイムシフトとマインドUPに力を入れてきました。年に1回コミュニティファーマシーフォーラムを開催し、少し先のことを提案し、会員各自がポスター発表にて発信、発進をしています。年に4~5回開催のCP研究会では、健康サポート薬局関連の研修に力を入れ、会員薬局に健康サポート薬局の届け出を率先して進めています。ハード面では店舗設計のお手伝いもしています。2019年には、倫理審査委員会を創設し、会員の調査研究事業も進めています。今後は薬局業務のアウトカムも出していかなければなりません。

まだ当初の目標となる活動内容の全てはできていませんが、今後も薬局開設者、薬剤師のパラダイムシフトとマインドUPの研修を通じてコミュニティファーマシーを多く作って行くことを目指していきます。

日本コミュニティファーマシー協会代表理事
吉岡 ゆうこ



“いきつけ薬局”のコンピテンシーモデル

- ① **通りに面したショーウィンドウ**
薬局から街の人々へ情報を発信するための重要なスペース。目を惹きつけるディスプレイで、季節や気候に応じた健康や薬の情報を伝えます。
- ② **夜間・休日対応窓口**
夜間や休日は人の頭が通らない大きさの窓口で対応します。
- ③ **体組成もしくは体重測定コーナー**
気軽に体組成や体重を測ってもらいます。
- ④ **各種測定コーナー**
血圧、骨密度、肺機能からお肌のキメや水分量チェックなど、体と健康のチェックのためにいつでも気軽に立ち寄ってもらうコーナーです。
- ⑤ **OTC医薬品(市販薬)の対面相談販売**
薬を使用する人の顔や様子を見ながら、症状や状況を直接聞き、薬剤師が適切なセルフメディケーションを提案します。
- ⑥ **薬局推奨の化粧品や食品**
美容と健康に関連するものとして、栄養機能食品、低カロリー食、介護食、低栄養改善食、サプリメント、減塩・低脂肪調味料など、薬局ならではの商品を取り揃え、栄養相談も行います。
- ⑦ **相談カウンター**
食事、運動、睡眠、排泄、身体衛生(入浴・清潔)、美容や健康、介護、薬のことを、専門的な知識と経験を持つ薬剤師が家族のように相談に応じます。
- ⑧ **談話・閲覧スペース**
お茶を飲んで談笑したり、医療・介護・健康関連情報が閲覧できるスペースです。
- ⑨ **プライベートルーム(個別相談室)**
他人に聞かれたくない内容も、周囲を気にせずゆっくりと薬剤師に相談できます。
- ⑩ **調剤室**
- ⑪ **無菌調剤室**
- ⑫ **無菌調剤室前室**
- ⑬ **薬の受け渡し口**
- ⑭ **夜間待機室**
- ⑮ **医薬品等搬入口**
注文した薬が搬入されたり、患者宅に届ける薬を運び出すための出入り口です。
- ⑯ **スタッフルーム&医薬品情報(DI)室**
十分な広さが確保されたスタッフルーム。スタッフの休憩だけでなく、研修会やカンファレンス、医薬品情報関連書籍の閲覧などに活用します。
- ⑰ **在宅(居宅)療養支援**
地域住民の在宅療養支援に他のサービス事業者と連携して関わります。

設立趣旨

一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会 (Japanese Association for Community Pharmacy = JACP) は、本来の薬剤師の職能と薬局の機能に与えられた使命の下に社会的役割と責任を果たすために、人々の生活圏を舞台とした健全な地域社会づくりに貢献するコミュニティファーマシーを創造することを目的として2013年11月22日設立。

地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造を行う。

そのアプローチの手法としては、長い歴史の中で街の薬局として厳然として機能してきたドイツの薬局の業態に範をとり、その長所を日本の薬局に取り入れ、具体的なアクションプランとして「日独融合型薬局」という新しい業態提案を軸に具体的支援策を提供していく。

これにあたり、最も重要な生活者および患者の立場と思いを理解した施策を講じることで、薬剤師と薬局の役割と責任を明確に表明し、表現し、活動を実行できる薬剤師が運営するコミュニティファーマシーを増やすことを目指す。

活動内容

1. 地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造と啓発活動
2. コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり・販売促進・情報発信等に関する支援活動およびコンサルティング
3. 地域の保健、医療、公衆衛生に貢献する薬剤師の行動指針の構築ならびに育成活動
4. コミュニティファーマシーとして地域包括ケアにおける他職種との連携に関する立ち位置の明確化および特徴ある役割と機能の整備、構築のための支援活動
5. 薬学教育発展に寄与するための特別講座など具体的プランの提案
6. コミュニティファーマシーの業務に携わる薬剤師(コミュニティファーマシスト)のマインド喚起とモチベーション醸成を目的とした各種視察ツアーおよび研修
7. 保健、医療、公衆衛生等の薬剤師および薬局が関わる各種調査・分析・データベースの構築など
8. 薬局の専門領域における学術研究
9. 医療・保健・福祉分野だけではなく社会科学的見地からの地域における薬局の在り方に関する理論構築
10. その他

JACPのロゴマークの蛇は、ギリシア神話の医薬の神アスクレピオスに多くの知恵を受けた聖蛇をモチーフにしています。杯は、アスクレピオスの娘であるヒギエイアの杯です。それらを十字と組み合わせ、杯から餌を食べている姿をロゴマークとしました。このマークと団体名(日本コミュニティファーマシー協会)、略称(JACP)は登録商標として登録が完了しています。デザインは異なりますが、このヒギエイアの杯に絡まる聖蛇の姿は、ドイツ全土の薬局(Apotheke)のマークにも用いられています。



Think globally

Act locally

JACPでは、日本の医療制度や薬局だけに目を向けるのではなく、
欧米の薬局や医療制度にも注目し、グローバルな視点で日本の薬局のことを考えています。



ドイツの薬局に学ぶ

ドイツ薬学視察旅行を開催し、現地の薬局、病院薬局、
大学薬学部、オーガニック医薬品会社とその農園、ドイツ薬事博物館等
多様な視察先から多くのことを学んでいます。



- ①街にとけ込む薬局の外観
- ②③ディスプレイで情報発信
- ④商品豊富な店舗
- ⑤相談応需のための個室
- ⑥最新のデジタルウォール
- ⑦ピッキングマシン導入で機械化が進む
- ⑧ロッテンプルクの薬局
- ⑨ドイツ薬局の日
- ⑩実験室
- ⑪24時間365日輪番制で開いている夜間薬局の様子
- ⑫夜間薬局用の小窓



ドイツ薬事博物館の総会が2017年4月に開かれ
開催地の古都シュバイアーに出向きました
JACPIはドイツ薬事博物館の賛助会員となっています

FIP国際会議で学ぶ



FIP(国際薬剤師・薬学連合)の国際会議に毎年参加しています。
FIPの国際会議は毎年開催していて、これまでに
タイ、ドイツ、アルゼンチン、韓国、イギリスを訪問しました。
世界の薬剤師が一堂に会しての学会であり、ポスター発表の場もあります。
現地の薬局への視察ツアーも行なっています。



カナダに学ぶ

カナダでは薬剤師がケアに介入することで
患者のアウトカムが上がることを実証しています。
その第一人者が Epidemiology Coordinating and
Research (EPICORE) Centre の所長 Ross Tsuyuki 教授であり、
その他アルバータ州立大学薬学部の教授らより
薬剤師の職能拡大についての教をを請うています。



- ①アルバータ州立大学薬学部教授 Ross Tsuyuki氏
- ②同大学薬学部教授・副学長 Christine Hughes氏
- ③同大学薬学部准教授 Terri Schindela氏
- ④同大学薬学部 Prod. Nese Yuksel氏
- ⑤同大学薬学部 Dr. Tatiana Makhinova氏

- ①タイ舞踊による歓迎レセプション(バンコク)
- ②FIP会長の引き継ぎの場面(バンコク)
- ③三重奏によるFIPのオープニングイベント(デュッセルドルフ)
- ④FIPとエクスポファーマの会場となったメッセ・デュッセルドルフ
- ⑤FIP会長 Carmen氏の開会宣言(プエノスアイレス)
- ⑥地元の薬局視察(ソウル)
- ⑦FIP年間の表彰(ソウル)
- ⑧地元の薬局視察(エディンバラ)
- ⑨バグパイプによる歓迎レセプション(グラスゴー)
- ⑩FIPのポスター発表会場(グラスゴー)



カナダのEPICOREセンターに在籍していた
岡田浩氏はアウトカム研究の情報を
"ApoBitte!かわら版"で発信しています

Think globally

Act locally

薬剤師のモチベーションアップのために、フォーラム、ワークショップ、CP研究会、CP学術講演会、関西CPセミナー、健康サポート薬局経営塾、国内視察ツアーなどを開催しています。

コミュニティファーマシーフォーラム

年に1回、コミュニティファーマシーフォーラムを開催し、時代の先ゆく話を学んでいます。

- 2014年5月25日 第1回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域とともに歩む薬局〜ドイツと日本における実践〜」
- 2015年5月24日 第2回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域包括ケアに参画するコミュニティファーマシー」
- 2016年7月24日 第3回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「発信!発進!コミュニティファーマシー」
- 2017年7月23日 第4回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「もっとその先へ!コミュニティファーマシー」
- 2018年7月22日 第5回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「明治維新150年、今薬局変革の時〜地域とつながる&AIと夢見る未来へ〜」



2015年ドイツ薬事博物館長・E.フーヴァ氏



2016年厚生労働省・田宮憲一氏



第3回以降の会場となっている秋葉原コンベンションホールでの講演の様子



2017年日本医療施策機構・小野崎耕平氏



2018年経済産業省・江崎禎英氏

コミュニティファーマシーワークショップ

コミュニティデザイナーの山崎亮氏の指導のもと、地域住民とのつながり方をコミュニティデザインという手法で学びました。

2016年2月11日 第1回コミュニティファーマシーワークショップ
「人と人をつなぐコミュニティデザイン」



スモールグループに分かれてテーブルワークを実践



studio-L代表・山崎亮氏



薬局に必要な取り組みを考えていく

国内視察ツアー

日本国内でも主に健康サポート薬局を中心に視察ツアーを行っています。



2017年4月 奈良の大宇陀を歩きました



2018年6月 茨城・フローラ薬局のハーブ園で学ぶ



2017年5月 広島島のぞみ薬局を視察



2017年5月 岡山のマスカット薬局を視察

CP研究会、CP学術講演会、関西CPセミナー

「患者のための薬局ビジョン」で掲げられているかかりつけ薬剤師・薬局機能、健康サポート機能、高度薬学管理機能習得のための知識、技術、態度、コンピテンシーを学んでいます。

- 2015年第1期 CP研究会(年6回開催)
- 2016年第2期 CP研究会(年5回開催)
- 2017年第3期 CP研究会(年5回開催)
- 2018年第4期 CP研究会(年4回開催)

- 2015年2月第1回CP学術講演会「糖尿病」
- 2015年9月第2回CP学術講演会「皮膚疾患」

- 2016年 関西CPセミナー(年1回開催)
- 2017年 関西CPセミナー(年3回開催)
- 2018年 関西CPセミナー(年3回開催)



食育SATシステム研修



簡易懸濁法研修



AED体験研修



検体測定体験研修



シニア体験研修



OTC医薬品トリアージ研修

コミュニティファーマシーの日

ドイツの「薬局の日」に学び、5月5日を「コミュニティファーマシーの日」と記念日協会に登録しました。毎年「コミュニティファーマシーの日」を軸にJACP加盟の薬局では地域の人たちを巻きこんだイベントを開催しています。



コミュニティファーマシーの日のポスター



子ども薬剤師体験



ベビーフェスタ



薬草園で薬草摘み



家庭のくすり箱セミナー



健康セミナーで相談応需



ハーブで作った食品の試食

JACP入会のご案内と薬局応援ツール

<入会特典>

1. 本協会が主催する各種学術大会における発表資格
 2. 本協会の催す研修会、講演会参加費の優遇
 3. 本協会が販売・推奨する製品やサービス等の割引
 4. 会員の薬局開業支援
 5. 本協会が提供する業界関連情報の取得
 6. その他、理事会で決定された特典
- * 会員の種別により特典の内容が異なる場合があります。
詳しくはホームページにてご確認ください。



かかりつけの患者用お薬手帳 **my health record**

かかりつけの患者さん、健康サポート薬局に来局される地域住民を意識して作成しました。患者さん、地域住民とのコミュニケーションツールともなるよう作成しています。



地域住民と薬局をつなぐ コミュニケーションツール **Sup?**

SUP?とは英語で「どう?元気?」という意です。春、夏、秋、冬と季刊です。薬局・薬剤師のことを伝える内容、生活に関する豆知識、薬局を利用すると得する話題などを盛り込んでいます。表紙は、薬局を中心に薬剤師が地域に出かけて地域住民と関わっているイラストです。春夏秋冬と揃いましたので、薬局の楽しいディスプレイともなります。内容には季節性がありますが、年間通して配布できるパンフレットです。



JACP会員向け情報機関誌 **ApoBitte!**

JACP会員向け機関誌「ApoBitte!」(ApoBitte!は年に1回、ApoBitte!かわら版は年に4~5回)と、メールマガジンの発行(月4~5回)を通して、コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり、販売促進、情報発信等に関する支援を行っています。

JACP5年間のあゆみに寄せて

地域在宅医療における多職種連携をテーマにした映画「ピア」のプロデューサー 山国秀幸

今回、チーム医療をテーマにした映画「ピア」を製作するに当たり、多くの医療職の方々の活動を学ぶ機会を得ることが出来ました。その過程で、普段あまり目にもすることもなく意識することもなかった薬剤師の役割を理解できましたが、特に薬物治療などの点で薬剤師でなければできない仕事と責任の重さを知ることが出来ました。

また、医療の現場が病棟から地域に比重が移されていく状況の中で地域に根差した薬局への期待は潜在的に大きなものがあるということ映画作りを通じて強く感じました。その意味で、地域の健康社会の拠点となり、人々にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」の育成を目指す日本コミュニティファーマシー協会の活動に大いに期待します。



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3 望月ビル3F TEL:03-3354-0288 FAX:03-5759-1724
<http://www.ja-cp.org>